

■ヒメニセコガタクサカゲロウ

先日、クロヒゲフタモンクサカゲロウやフタモンクサカゲロウに似ているのですが、ちょっと違うクサカゲロウを見つけました。検索してみると、ヒメニセコガタクサカゲロウという種になりました。ただ、この種は

日本では琉球諸島と小笠原諸島で普通なのですが、他の地域では稀な種とされています。それで、あまり自信はないのですが、一応、記録のためにまとめてみました。

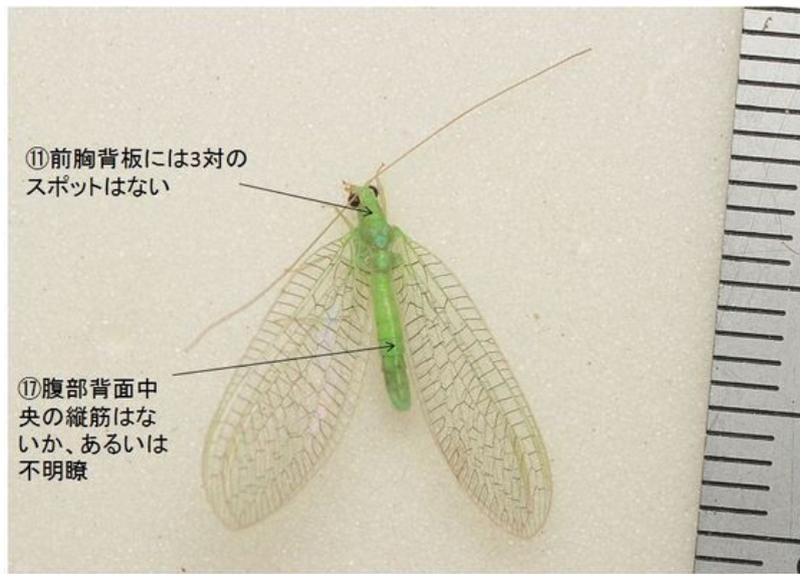


Fig. 1

見つけたのは8月22日で、マンションの廊下です。見る限り普通のクサカゲロウみたいですが、あえて全体的な特徴を書くと、翅に黒色の横脈が多いとか、体の中心を走る黄色の帯が見られないなどが見て取れます。

「¹」は計測のために撮影したものです。クサカゲロウを採集した時は、最近、チャック付きポリ袋に入れて冷凍庫に入れることにしています。以前は酢酸エチルを含む毒瓶に入れていたのですが、ほぼ間違いなく緑が黄色に変色してしまいます。こうやって冷凍庫に入れておくと緑が保たれてなかなか調子がよいです。ただ、観察のたびに、解凍、冷凍を繰り返しているのので、何か変質するかもしれませんが……。この写真から計測すると、体長6.5mm、右触角の長さ10.5mm、前翅長13.5mmでした。触角は左右とも先端が切れている感じなので、あてにはなりません。

■クサカゲロウの検索

クサカゲロウの検索はだいぶ前から、次の本を使っています。

塚口茂彦、"Chrysopidae of Japan (Insecta,

この本は自費出版なので手に入れることが難しいのですが、大変よくまとめられた労作だと思えます。この本の検索表を使って上の種を調べていきたいと思えます。クサカゲロウ族であることは間違いないので、その先の属の検索からしていきたいと思えます。

前から何度も出している検索表です。上記の本が英語なので、私のつたない語学力で訳しているの間違っているところも多々あると思えます。ご了承ください。赤字は例によって、今回用いた検索の項目です。関連する写真を載せません。

Fig. 2と3は頭部を前からと横から撮影したものです。検索表の項目と関連するところは図にその番号とともに内容を書き込んでいます。まず、①は腹部に書類差しのような構造 (file-like structure) についてですが、私自身この構造を見たことがないので、こんな訳がよいのかどうか分かりません。ただ、本の図には載っているので、この個体にはないことはすぐに確かめられます。

クサカゲロウ族の属への検索

- ①a 第2腹節の腹板側方に書類差しのような構造 (file-like structure) がある
 - ②a 頭部に黒褐色ないし黒色のスポットが頬、額片、触角間の場所にある
 - ニセコガタクサカゲロウ属(I)
 - キントキクサカゲロウ属
 - ②b 頭部にスポットはない
 - ①b そのような構造はない
 - ③a 口肢を除いて頭部に紋はない
 - ④a 大型から特大の大きさ(翅長は 17-30mm)。触角柄節は相対的に長い(幅より長い)。前翅の Psm-Psc 間の横脈は 9 以上
 - オオクサカゲロウ属
 - ④b 小型から中型(翅長 12-17mm)。触角柄節は膨潤(長さは幅程度)。前翅の Psm-Psc 間の横脈は 6-8
 - ⑤a 触角は前翅より明確に長い。翅脈は全体に黄色ないし緑色で、黒色ないし茶色の翅脈はない
 - コガタクサカゲロウ属(I)、プレシオクサカゲロウ属
 - ⑤b 触角は前翅より短いか同長。翅脈は黄色ないし緑色と黒色ないし茶色の二色性
 - ⑥a 大顎は対称
 - クリソトピア属
 - ⑥b 大顎は非対称
 - ユメクサカゲロウ属
 - ③b 頭部に紋がある
 - ⑦a 額に黒色ないし茶色の模様や紋があり触角直下の縫合線に接続する
 - クサカゲロウ属
 - ⑦b 額にそのような模様はないか、もしある場合には、触角直下の縫合線とは離れる
 - ⑧a 翅脈は緑色
 - ⑨a 触角は前翅より明確に長い
 - コガタクサカゲロウ属(II)
 - ⑨b 触角は前翅より明確に短い
 - ヒメクサカゲロウ属(I)
 - ⑧b 横脈は黄色ないし緑色と黒色ないし茶色の二色性
 - ⑩a 翅室 im の先端は Rs-M 横脈を超えない
 - ヒメクサカゲロウ属(II)
 - ⑩b 翅室 im の先端は Rs-M 横脈を超える
 - ニセコガタクサカゲロウ属(II)

この構造は発音に関係した構造のようです。

③は頭部に紋があるかないかですが、写真を見るとあることは確かです。次は⑦で、額 frons なので前額と訳すべきでしたに

紋があるかどうかです。Fig. 2を見ると分かりますが、紋はありません。次の⑧と⑩は翅脈についてなので、前翅の写真を載せます (Fig. 4)。

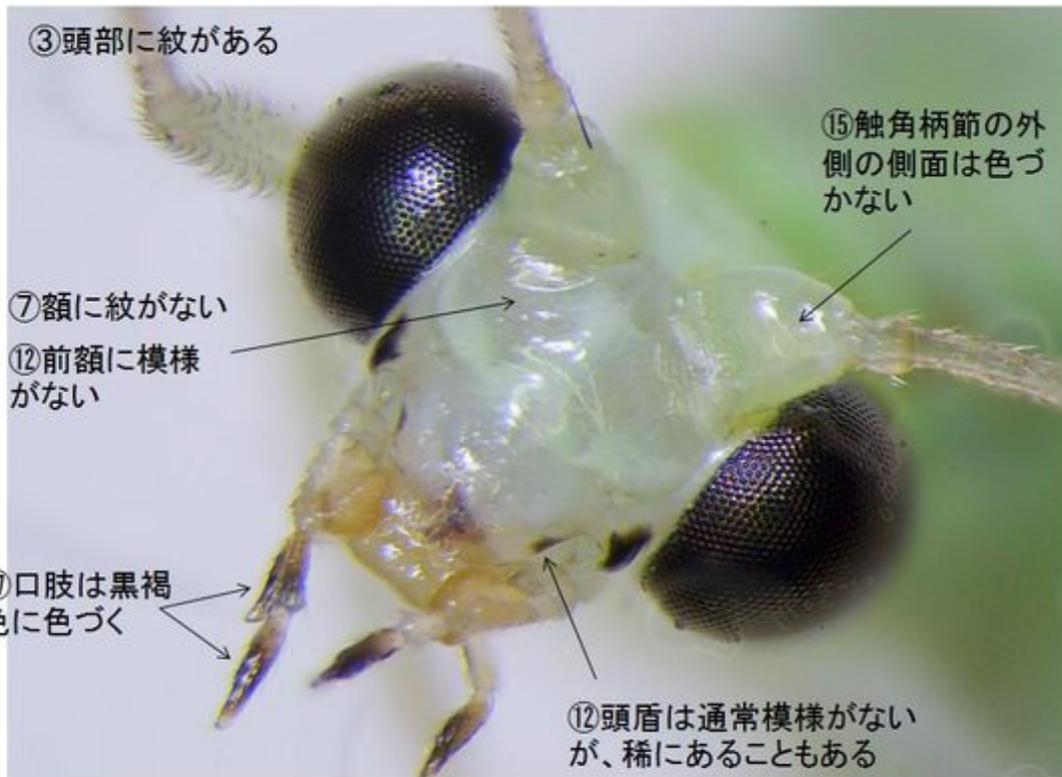


Fig. 2



Fig. 3

この写真から横脈のどの部分が黄色ないし緑なのか分かりにくいのですが、翅の中頃右側で横脈が途中で薄くなって見える部分は途中から緑色になっている部分です。次の⑩の翅室はこの図に示してありますが、その先端が Σ 横脈より翅端側にあるかどうかを尋ねています。間違はなく翅端側にあるので、これでニセユガタクサカゲロウ属になりました。

次は種への検索表です。また、訳した検索表を載せます。

⑪の前胸背板に茶色か黒のスポットがあるかどうかですが、Fig. 1を見ると分かりませんが、そのようなスポットはありません。一応、その部分の拡大を載せておきます (Fig. 5)。

次の⑫は前額に紋がないということなので、⑦ですでに確かめました。また、頭盾両側の紋については、同じFig. 2に載せていますが、弱い線状の紋があります。次の⑮は触角柄節は色づかないということですが、注目する所は柄節外側の側面です。Fig. 2あるいはFig. 3で分かりますが、色づいていません。この特徴でクロヒゲフタモンクサカゲロウを除外することができます。最後の⑰は口肢が黒褐色に色づくかということですが、Fig. 3を見ると分かれますが、口肢末端節の中央部が黒褐色に色づいています。また、腹部背面中央に縦筋があるかどうかですが、Fig. 1でも見れるように明瞭な縦筋はありません。細い縦筋が見えるのですが、これはフラッシュで光ってしまった部分です。ということなので、フタモンクサ

ニセコガタクサカゲロウ属の種への検索

- ⑪a 前胸背板には3対の明るい茶色か黒色のスポットがある;腹部第2腹板の側縁には発音性のファイル状構造がある
セボシクサカゲロウ
- ⑪b 前胸背板にはそのような斑はない;腹部第2腹板にはファイル状構造はない
- ⑫a 前額と頭盾には模様がある
- ⑬a 触角間にスポットがある
イツホシアカマダラクサカゲロウ
- ⑬b 触角間にスポットはない
- ⑭a 頬のスポットは黒褐色から黒;口肢は明瞭な模様がある;胸から腹部にかけて背中央の縦筋はない
ヨツボシアカマダラクサカゲロウ
- ⑭b 頬のスポットは赤から赤褐色;口肢は多かれ少なかれ不明瞭な模様がある;胸から腹にかけて背中央に明るい黄色の縦筋がある
ヒメニセコガタクサカゲロウ
- ⑫b 前額には模様がない;頭盾は通常模様がないが、稀にあることもある
- ⑮a 触角柄節の外側の側面は茶色から黒褐色で色づく
- ⑯a 口肢はほとんど色づかない
ミナミクサカゲロウ
- ⑯b 口肢は強く色づく
クロヒゲフタモンクサカゲロウ
- ⑮b 触角柄節は色づかない
- ⑰a 口肢は色づかない;腹部背面中央には明瞭な黄色の縦筋がある
フタモンクサカゲロウ
- ⑰b 口肢は黒褐色に色づく;腹部背面中央の縦筋はないか、あるいは不明瞭
ヒメニセコガタクサカゲロウ

カゲロウを除外でき、ヒメニセコガタクサカゲロウになりました。

■ヒメニセコガタクサカゲロウの特徴

次に、本に載っている種の特徴についても読んでみました。前翅長はこの個体が13.5mmであるのに対し、本では11-13mmです。まあいいのかもしれませんが。触角の長さの本では前翅長と同長とありますが、これは

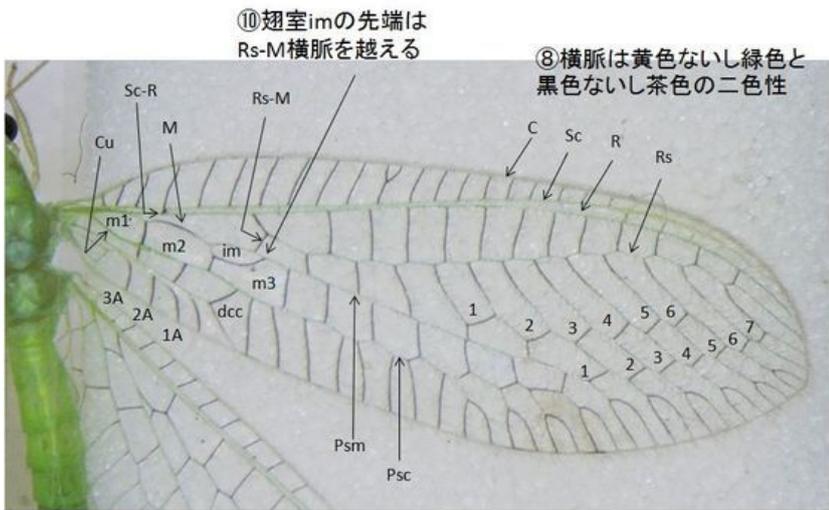


Fig. 4



Fig. 5

かなり短いですが、でも、どちらやら途中で切れてしまっているようです。クサカゲロウの翅には段横脈というのがあり、Fig. 4には番号を入れているのですが、上側は9、下側は7あります。これを9/7と書きます。本では4-6/4-7となっていて、範囲には入っています。

ということで、外形的な特徴はまあよそ

うなのですが、記述を読んでもどれが特徴なのかさっぱり分かりません。それは、紋があるか、弱いあるいはない場合があるというあいまいな記述ばかりなのです。おまけに琉球産と本州産では若干違いがあるようです。本州産では、前額の紋はまったくなく、暗褐色から黒褐色の頬の紋があり、頭楕両側の紋はわずかで、横脈の黒色部分はより黒いということで、今回の個体とはよく合っています。

ただ、口肢の色は本の図も参照しながら見てみると、小顎鬚(外側の大きな口肢)の第3節、第4節の外側が弱く着色、第5節(末端節)の中央部が全体に着色、下唇鬚(内側の小さな口肢)の末端節中央が全体に着色しているようです。この個体では小顎鬚は末端節中央部だけが着色しているもので、ちょっと違うようです。でも、これも変異のうちかもしれません。いつももやもやで終わるのですが、だいたいヒメニセコガタクサカゲロウでよさそうです。でも、この種、もう少し細かく分かれるかもしれないという感触を持ちました。

クサカゲロウの頭部で色づく場所

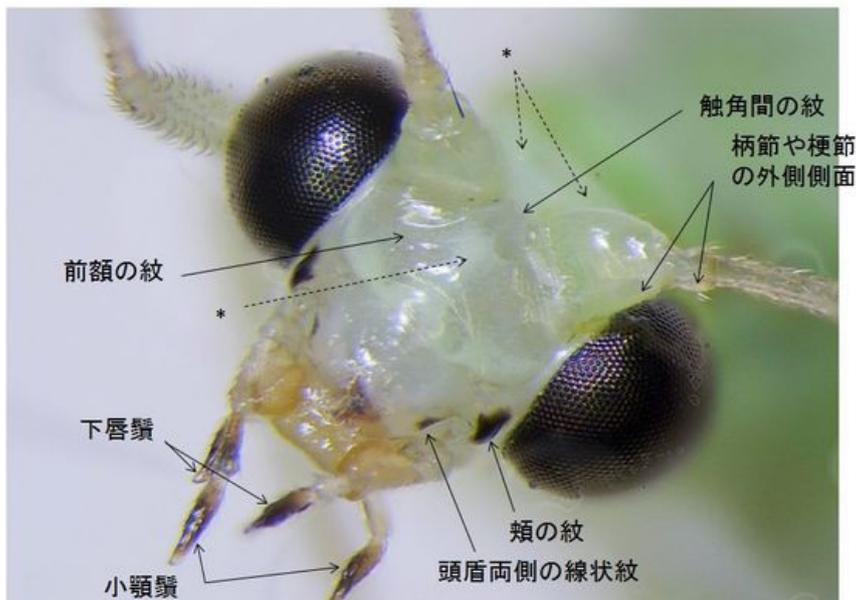


Fig. 6

最後に今回の個体の顔写真を使って、クサカゲロウの頭部の着色部分をまとめてみました。*で書いてあるのはこの部分に着色斑が出ることもあるということを示しています。参考まで。